44
2020.11

放送番組センターレポート

BROADCAST PROGRAMMING CENTER OF JAPAN Report

公益財団法人　放送番組センター
〒231-0021 横浜市中区日本大通 11 横浜情報文化センター
TEL.045-222-2881 FAX.045-641-2110　http://www.bpcj.or.jp/

上映会＆公開セミナー『日本遺産』

今年度最初の「番組を視聴する会」（9 月 17 日～ 10 月 4 日）と公開セミナー「制作者に聞く！」（9 月 26 日）は、BS-TBS で放送された『日本遺産』（製作／ TBS スパークル）を取り上げた。コロナ禍での実施にあたり、席間の距離・換気など十分な感染予防対策を行った。

『日本遺産』は、文化庁が認定した「日本遺産」を 30 分で 2 件ずつ紹介するシリーズ番組。「日本遺産」とは、日本の文化・伝統を語る上で欠かせない地域の歴史的魅力や特色をストーリーで結び合わせ、文化庁が認定したもの。この番組は、「日本遺産」を真正面から映像化した唯一の作品であり、“知っているようで知らなかった日本”を 4K 映像で美しく描き出した。2016 年 11 月にシーズン 1 が放送され、これまでシリーズ 3 作と新春 SP の計 25 作品が放送されており、来年には最新作の放送も控えている。放送ライブラリーでは、新春 SP 以外の 24 作品を公開している。

上映会では、これまでに放送された全 25 作品の上映を行い、来場者からは「映像が美しかった。現地に行ってみたくなった」などの声が寄せられた。

9 月 26 日のセミナーは 2 回に分けて開催し、1 回目はシーズン 1/ ①海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群（福井県）・②鯨とともに生きる（和歌山県）、2 回目はシーズン 3/ ①大雪山 カムイと共に生きる上川アイヌ（北海道）・峡東地域の葡萄畑が織りなす文化的景観（山梨県）を取り上げた。講師は、チーフ・プロデューサーの河野英輔氏。両回共、番組上映後に「世界遺産」と「日本遺産」の違い、「日本遺産」の現状、上映回の解説や撮影エピソードなどを語った。

「日本遺産は、認知度は低いが、関心度は高い」という調査結果がある。認知度について河野氏は、第一の原因として「世界遺産のように地域・建造物ではなく、“遺産＝ストーリー”という定義の分かりづらさ」を挙げた。また「とにかくタイトルが長い」と言うと会場から笑いが漏れた。セミナー最後に河野氏は「日本遺産はふるさとの遺産、ふるさとを見直すことのできるツール。この気持ちを受け止めてくれる視聴者がいるという思いで番組を作った」と締めくくった。

会場からは「日本遺産を知る機会になって良かった」「これからも日本遺産の素晴らしさを映像で紹介してほしい」など多くの感想が寄せられた。このセミナーの様子は、放送ライブラリーの公式 YouTubeで公開されている。

■放送ライブラリー全面開館へ

コロナウイルス感染症拡大を受けて、放送ライブラリーは接触箇所の多い常設展の一部を閉鎖していたが、9 月 4 日、体験コーナー等を含め全面開館とした。キャスター体験のできるニューススタジオは、従来のピンマイクからスタンドマイクに変え、利用ごとにキャスター卓やマイクを消毒する等の処置を行う。少人数の団体の受入れも再開し、館内は久々に小学生の声で溢れた。今後も、感染状況に応じて柔軟に対応していくこととする。

■大学での番組利活用

【上智大学】

令和２年度前期、文学部「デジタルアーカイブ論」（柴野京子准教授）で放送番組センターが著作権を持つテレビ番組 10 本が利用された。番組アーカイブの理論を実践的に学ぶ授業で、成果であるアーカイブデータは、放送ライブラリーの番組情報として公開していく。

【熊本学園大学】

令和２年度前期、全学教育「情報メディア論Ⅰ」、後期「情報メディア論Ⅱ」（村上雅通非常勤講師）で熊本放送制作のドキュメンタリー８本が利用された。この授業は、メディアの役割や特性を考察し、メディアがもたらす影響について、テレビ報道に携わってきた講師が解説する。利用した番組は以下の通り。

『封印　～脱走者たちの終戦～』(1996)、『市民たちの水俣病』(1997)、『たこやき屋繁盛記』(1998)、『記者たちの水俣病』(2000)、『電撃黒潮隊空白～述懐･ハンセン病報道～』(2001)、『流転　追放の高麗人と日本のメロディー』(2004)、『ムーブ 2006　鄭秀雄　日韓問題の原点を追う』(2006)、『月が出たでた　～お月さんたちの炭坑節』(2009)。

【上尾看護専門学校】

令和２年度前期、２年「在宅援助技術」（前田久恵教員）でテレビ番組１本が利用された。この授業は在宅療養者の看取りや、看護師として不安や苦痛を抱える家族にどう関わるかを考えるもので、訪問看護の現場を追った『どーんと鹿児島　愛しき命～訪問看護の現場から～』（2014/ 南日本放送）が利用された。

■ジャパンサーチ正式版　公開開始

８月 25 日、分野横断統合ポータル「ジャパンサーチ」の正式版が一般公開された。「ジャパンサーチ」は、内閣府知的財産戦略本部が進めるデジタルアーカイブジャパンの取組みの一環であり、書籍、文化財、メディア芸術等の各分野のデジタルアーカイブと連携し、国内の多様なコンテンツのメタデータを検索できるポータルサイトである。昨年２月公開の試験版を経て、正式版の公開が開始された。

正式版では、デジタルアーカイブの構築・共有と利活用が促進されるよう、ユーザー自らの電子展覧会「ギャラリー」を作成できる「マイノート」や、「ギャラリー」の共同編集機能等が新機能として追加され、利便性が向上した。

正式版公開時で 23 機関、108 のデータベースと連携しており、約 2100 万件のメタデータを検索できる。

放送番組センターは、放送ライブラリーで公開中のテレビ・ラジオドラマの番組名、放送局名など７項目のファクトデータを提供している。

正式版公開後も、各種機能の改善及び拡充、デジタルアーカイブの構築・共有と利活用を促進するための環境づくりが進められる。

■ 2020.6 ～ 2020.9 の公開番組

【テレビ番組】

『土曜ドラマスペシャル　とんび』前後編
2012.01.07、2012.01.14 ／ NHK

『北斎ミステリー　幕末美術秘話
もう一人の北斎を追え !』
2017.12.09 ／日本 BS 放送

『NNN ドキュメント’17　移民のうた
“歌う旅人”松田美緒とたどる
もう一つの日本の記憶』
2017.11.26/ 讀賣テレビ放送

『あした、天気になぁれ』
2007.05.29 ／南海放送

『ダイワハウススペシャル　沖ノ島
～藤原新也が見た祈りの原点～』
2017.07.02 ／九州朝日放送

【ラジオ番組】

『時計屋カフェ　～認知症と生きる～』
2019.05.26 ／ IBC 岩手放送

『朝の小鳥　65 年のコーラス』
2018.06.20 ／文化放送

『あの小説の中で集まろう』
2018.06.15 ／横浜エフエム放送

などテレビ 225 本、ラジオ 31 本。

新公開番組 PICK UP!

吉岡忍 ドキュメンタリーの旅 時代の肖像『村から学校が消える日』

2009.2.11 ／東海テレビ放送
ディレクター：竹下喜六、松井真
プロデューサー：川上久晴

1997 年５月放送の『村から学校が消える日～モコモコと７人のとよっこ～（60 分）』に、放送から 12 年経った村を作家の吉岡忍氏が訪れた新撮部分（15 分）を加えたドキュメンタリー。

1997 年の舞台は、120 年の歴史に幕を閉じることになった愛知県設楽町の豊邦小学校。生徒７人、教職員８人、ヤギのモコモコと学校を支える村人たちの、閉校までの１年間を追ったものだ。

豊邦小の児童は「とよっこ」と呼ばれ、四季と共に暮らす。校庭の桜を見ながら給食の卓を囲み、小川の天然プールで泳ぐ。山の恵みを味わい、割った竹に入れて炊いたご飯を頬張る。そして年が明け、最後の学期を迎えることとなる。

住民総出で行われる四季折々の行事など、人間と自然が織りなす豊かな生活に魅入られる。また子供や村人の、あけすけなほど豊かな表情は、カメラの前という緊張を全く感じさせない。撮影スタッフとの信頼感の為せる技だろう。地域局ならではの“過疎村での長期取材”は、１つの集落の歴史を語る優れた記録となっている。

吉岡氏は、成長した生徒や元校長と会い、現在の集落を歩く。子供の数は更に減ったが、トンネルの開通で村は変化を遂げていた。「今見えるものだけが“現在”と思いがちだが、現在に続く歴史を作った人々をテレビは記録してきた」という吉岡氏のコメントは、正に番組アーカイブの意義とも言えよう。

◆放送ライブラリー公開番組数
テレビ番組 17,422 本／ラジオ番組 4,634 本／テレビ・ラジオ CM11,666 本／劇場用ニュース映画 2,683 項目　（2020.9.30 現在）